

# プログラム

9:50～10:00 開会の辞 佐谷 秀行

10:00～10:50 一般口演1 座長 大塚 藤男

- 1 レックリングハウゼン病のカフェオレ斑のナローバンド UVB 照射による色調の変化について  
森 竜樹、今福信一、中山樹一郎(福岡大学皮膚科学教室)
- 2 雀卵斑様色素斑と大型の褐色斑が全身に多発した1例  
宇都 麗、常深祐一郎、川島 眞(東京女子医大皮膚科)
- 3 小児のレックリングハウゼン病は初診時に何割が確定診断できるか？  
野崎 誠<sup>1</sup>、佐々木りか子<sup>1,6</sup>、土井亜希子<sup>1</sup>、重松由紀子<sup>1</sup>、久保田雅也<sup>2</sup>、関 敦仁<sup>3</sup>、東  
範行<sup>4</sup>、小崎里華<sup>5</sup>、新関寛徳<sup>1</sup>(<sup>1</sup>国立成育医療研究センター 皮膚科、<sup>2</sup>神経内科、<sup>3</sup>整形  
外科、<sup>4</sup>眼科、<sup>5</sup>遺伝診療科、<sup>6</sup>りかこ皮膚科クリニック)
- 4 こども病院遺伝科を受診する神経線維腫症1型の臨床症状のスペクトラム  
川目 裕(お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科ライフサイエンス専攻遺伝  
カウンセリングコース、長野県立こども病院遺伝科)

10:50～11:35 ワークショップ(遺伝カウンセリング) 座長 谷戸 克己

- WS1 信州大学医学部附属病院における神経線維腫症1型の診療  
古庄 知己(信州大学医学部附属病院遺伝子診療部)
- WS2 遺伝子カウンセリングー小児科臨床の立場からー  
小野 正恵(東京逓信病院小児科)
- WS3 レックリングハウゼン病の遺伝カウンセリングにおける2、3の問題点  
三橋 善比古(東京医科大学皮膚科)

11:35～12:25 招待講演 座長 天谷 雅行

Neurofibromatosis Type 1: Use of Molecular Testing for Clinical Management  
David Viskochil (Division of Medical Genetics, University of Utah)

12:30～13:30 懇親会 会場: 三田キャンパス北館ホール前会議室

13:35～13:45

庶務報告と日本レックリングハウゼン病学会賞(Riccardi 賞)授賞式  
新村 真人

13:45～14:10

会長講演

座長 新村 真人

分子機構に基づく神経線維腫治療戦略の考案

佐谷 秀行(慶應義塾大学医学部先端医科学研究所遺伝子制御研究部門)

14:10～15:10

教育講演

EL1 整形外科からみたレックリングハウゼン病の問題点

舟崎 裕記(東京慈恵会医科大学整形外科)

座長 太田 有史

EL2 神経線維腫症 1 型にみられる末梢神経腫瘍の病理

廣瀬 隆則(徳島県立中央病院病理診断科)

座長 水口 雅

EL3 神経線維腫症 1 の瀰漫性神経線維腫に対する対応

倉持 朗(埼玉医科大学皮膚科学教室)

座長 光嶋 勲

(コーヒーブレイク)

15:25～15:50

特別講演

座長 若林 俊彦

Neurofibromatosis type 1 に合併する脳血管障害 —もやもや病との異同に関して—

白根 礼造(宮城県立こども病院脳神経外科、東北大学大学院医学系研究科先進成育医学講座発達神経外科学分野)

15:50～16:40

一般口演2

座長 吉田 雄一

5 外科手術を要する頸髄腫瘍を 3 世代にわたって認めた神経線維腫症 1 型の 1 家系

辻 雅弘<sup>1</sup>\*、吉田健司<sup>1</sup>、原田明佳<sup>1</sup>、苧坂直博<sup>2</sup>、上野 泰<sup>2</sup>、Ludwine Messiaen<sup>3</sup>、春田恒和<sup>1</sup>(<sup>1</sup>神戸市立医療センター中央市民病院 小児科、<sup>2</sup>脳外科、<sup>3</sup>The University of Alabama at Birmingham, Medical Genomics Laboratory、\* 現:独立行政法人 国立循環器病研究センター研究所 再生医療部)

6 当科で経験した NF-1 に伴う脊柱病変の検討

山元拓哉、井尻幸成、善明美千久、川畑直也、竹之内剛、田邊 史、堀川良治、河村一郎、小宮節郎(鹿児島大学大学院 運動機能修復学講座 整形外科学)

- 7 中枢神経系腫瘍を合併した神経線維腫症1型患者の臨床病理学的検討  
 杉山一彦、山崎文之、梶原佳則、渡辺陽祐、高安武志、栗栖 薫(広島大学大学院 医歯薬学総合研究科 脳神経外科)
- 8 症例報告: レックリングハウゼン病に合併した肺高血圧症にマルチキナーゼ阻害薬が奏効した一例  
 田村雄一<sup>1</sup>、小野智彦<sup>1</sup>、片岡雅晴<sup>2</sup>、川上崇史<sup>1</sup>、佐野元昭<sup>1</sup>、佐藤徹<sup>2</sup>、福田恵一<sup>1</sup>(<sup>1</sup>慶應義塾大学医学部循環器内科、<sup>2</sup>杏林大学医学部第2内科)

16:40~17:30

一般口演3

座長 佐谷 秀行

- 9 顔面のびまん性神経線維腫に生じた MPNST —早期治療の有用性—  
 緒方克己、津守伸一郎(古賀総合病院皮膚科)
- 10 NF-1 に生じた悪性末梢神経鞘腫瘍と神経線維腫におけるカテプシン K 発現の検討  
 Xiaofeng Yan<sup>1</sup>、高原正和<sup>1</sup>、Long Dugu<sup>1</sup>、Lining Xie<sup>1</sup>、小田義直<sup>2</sup>、師井洋一<sup>1</sup>、古江増隆<sup>1</sup>(<sup>1</sup>九州大学皮膚科、<sup>2</sup>九州大学形態機能病理学)
- 11 悪性末梢神経鞘腫瘍の診断・治療成績・予後関連因子  
 西田佳弘(名古屋大学大学院医学系研究科 運動形態外科学講座整形外科学)
- 12 Malignant peripheral nerve sheath tumor の 3 例  
 丸山 浩、中村泰大、藤澤康弘、川内康弘、大塚藤男(筑波大学皮膚科)

17:30~17:40

閉会の辞

大塚 藤男